

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
東京観光専門学校	昭和57年10月1日	昭和57年10月1日	篠田 真千	〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3-21 (電話) 03-3235-5713																					
設置者名	設立認可年月日	設立認可年月日	代表者名	所在地																					
学校法人Adachi学園	昭和42年1月12日	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																				
商業実務	観光専門課程	エアライン学科(1年) エアラインサービス学科(2年)		平成21年文部科学省 認定	-																				
学科の目的	【学科教育理念】エアライン業界が求める人財の育成 学科教育理念を実現するため以下の目標を掲げ、実践的かつ専門的能力をもった人材を育成することを目的とする。 ①グローバルなマナーやコミュニケーション・表現力を養う。 ②企業と連携した実践的な実習授業で専門的能力の向上を図る。 ③英語力の向上を図る。 ④エアライン業界の専門的な知識の理解を深める。																								
認定年月日	平成28年2月29日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2年	昼間	1920	2016	0	544	0	0																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
80人	19人	0人	3人の内数	9人の内数	12人の内数																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、試験、授業態度による総合評価																					
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日		卒業・進級 条件	卒業単位の取得が条件 出席率70%以上、定期テストの実施																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談や三者面談、専門カウンセラーによる面談実施		課外活動	■課外活動の種類 国内旅程管理研修、海外旅程管理研修																					
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 旅行・バス業界		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サービス接客検定2級</td> <td>③</td> <td>31名</td> <td>28名</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定2級</td> <td>③</td> <td>31名</td> <td>25名</td> </tr> <tr> <td>マナープロトコル検定3級</td> <td>③</td> <td>31名</td> <td>26名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	サービス接客検定2級	③	31名	28名	ビジネス実務マナー検定2級	③	31名	25名	マナープロトコル検定3級	③	31名	26名					※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等	
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
サービス接客検定2級	③	31名	28名																						
ビジネス実務マナー検定2級	③	31名	25名																						
マナープロトコル検定3級	③	31名	26名																						
■卒業者数		31	人																						
■就職希望者数		20	人																						
■就職者数		20	人																						
■就職率		100	%																						
■卒業者に占める就職者の割合		64.5	%																						
■その他 ・進学者数:		0人																							
(令和 3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																									
中途退学 の現状	■中途退学者 4名 令和3年4月1日時点において、在学者45名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者41名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、学習意欲の喪失、健康上の理由など		中退率	8.9%																					
■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など																									
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度(授業料減免制度) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科の ホームページ URL	https://www.tit.ac.jp/department/airline/																								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

エアライン業界で基本的資質として必要とされるものは「おもてなし」の心であり、この本質について理解を深めることが、エアライン業界を目指す当校の学生にとって必須の要件であると考え。学科では、チームワークや接客サービススキルにこの「おもてなし」を具体的に活かしていくため、日本マナー・プロトコール協会と連携し、授業内容の構築、実施により、その理論と実践を学んでいる。さらに、習得の度合いを測るために「マナー・プロトコール検定」を実施しているが、これはエアライン業界では社員教育や自己啓発の手段として必須のものである。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には、年度内に2回の開催を原則とし、シラバスを基に、各科目の授業目的や授業内容が業界のニーズに応えたものになっているかを、教員へのヒアリングを交えながら確認し、より実践に即したカリキュラムとなるよう、改善策を提案し、採用の是非を検討するものである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
毛利 二郎	株式会社JALグランドサービス	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
原 康隆	スカイマーク株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
木村 克也	特定非営利活動法人日本マナー・プロトコール協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
前嶋 祐子	東京観光専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月31日 13:00～15:00

第2回 令和4年3月31日 15:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より訪日外国人の増加により更にグローバルな国際マナーや言語の重要性や、社会人として意識を高める企業と連携した授業の必要性を指摘された。それを受け令和元年のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「航空業界研究」授業を「航空サービス」を中心とした企業と連携した授業に改善し、より実践的な実習授業を実施する。
- ②異文化の知識や理解を深めるために「一般教養」授業を細分化し国際マナーをカリキュラムに追加する。
- ③実習授業で得たスキルで業界に向け新しい提案をするため「スキルアップ」授業の充実を図る。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

エアライン学科の教育理念「エアライン業界が求める人財の育成」を実現するため、企業と連携した実践的な実習授業を実施することにより、実践的かつ専門的能力をもった人材を育成することを基本的方針とする。具体的には、企業もしくは団体より実習における教育内容に関連する指導方法、評価方法、教材作り等に対する助言、資料等の提供を受け、当該科目を担当する教員と連携団体の講師がこれに検討を加え、実践的な授業の改善及び工夫を行っていくものとする。また各期終了時には、生徒の学修成果の評価をふまえ、更なる改善・工夫の検討を加えるものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・スカイマーク株式会社による羽田空港での現場実習（インターンシップ） 旅客職、ハンドリング職における現場実習を実施。就職活動前に実際の現場で仕事を体験し、業界の今を知り学ぶことができる。さらに、実習経験を就職活動に活かすことができる。
- ・株式会社JALグランドサービスによるハンドリング授業 エアライン業界の今の現状を学び、就職活動へいかすことができる。
- ・株式会社インテックスによるハンドリング授業 エアライン業界の今の現状を学び、就職活動へいかすことができる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コミュニケーションスキル (マナー・プロトコル)	国際的なグローバルなマナーの理解を深め、コミュニケーション能力・表現力の向上を図る実習授業	日本マナー・プロトコル協会
航空業界研究	業界の理解を深め、現状を理解した上で業界の特徴、課題点を見つめるための授業	スカイマーク株式会社
CA実習	職種の特徴を理解し、実践的なコミュニケーション能力、表現力の向上を図る実習授業	スカイマーク株式会社
GS実習	職種の特徴を理解し、実践的なコミュニケーション能力、表現力の向上を図る実習授業	スカイマーク株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

① 専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

② 指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「航空業界が求める人物像」(連携企業等：スカイマーク株式会社)

期間：令和3年11月11日(木) 対象：エアライン

内容：入社後どのようにしたいのかを考えることができることが大事であり、コロナを経験した業界が求める人物像について講義を受ける。不確実な世の中であり、外敵要因からの影響が強いエアラインで今必要とされる人物像を学ぶことで、就職対策の授業などに反映

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「女らしく、男らしく、男も女も男も女も」

「～すべての人のジェンダーが平等に尊重される学校へ～」(連携企業等：日本LGBT協会)

期間：令和4年3月2日(水) 対象：全職員

内容：

【目的】①LGBTQとは何か、当事者の多様性を理解すべき領域はどこまでかを学ぶことで、漏れのない学生対応が可能になる。

②LGBTQの当事者である学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる。

③教育現場に特有の注意点や必要な環境整備を理解することで、当事者の心理的安全性を担保できるようになる。

【内容】①LGBTQとは何かという基礎的な理解をする。

②LGBTQ当事者の生き方やこころの持ち様を深く理解する。

③学生に向き合う教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 ディスパッチから学ぶエアライン業界 」(連携企業等:スカイマーク株式会社)
期間:令和4年11月25日(木) 対象:エアライン
内容:本校のコースにはない、ディスパッチの仕事を通じて、エアライン業界に必要な知識を学ぶ。天気の読み方、書類の読み方を通じ、この業界がいかに外的要因の影響をうけながら日々の運航をしていることを実感。実習、就職対策の授業へ反映する知識を習得

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ITリテラシー・情報セキュリティ研修」
「ITリテラシー・情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成」(連携企業等:合同会社アクセルフォーム)
期間:令和4年6月16日(木) 対象:全職員
内容:
【目的】ITリテラシーを向上させ、ICT教育の基盤づくりを進める。情報セキュリティの重要性を指導できる教員育成
【内容】①ITリテラシーとは何かという基礎的な理解をする。
②セキュリティ関連法規を理解する。
③教育現場(インターンシップを含む)におけるインターネットの利便性と危険性の理解

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育活動において、LGBTQをはじめとした多様性の理解が求められた。職員研修によって、教育現場でのLGBTQの基礎・気を付ける点を学ぶなど、多様性の理解度向上に取り組んだ。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	公益財団法人日本ケアフィット共育機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
木村 克也	特定非営利活動法人日本マナー・プロトコル協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	協会役員
原 康隆	スカイマーク株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
関口恭一	株式会社CALMO	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(3年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

公表時期: 令和4年6月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2) 各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3) 教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6) 学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7) 学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8) 学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9) 学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11) その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: https://www.tit.ac.jp/about/files/information_disclosure.pdf

授業科目等の概要

(観光専門課程エアライン学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		就職対策	エントリーシート・履歴書の作成のための対策、面接で自己表現できるよう演習	1後2前	64	4	○			○	○			
2	○		ビジネスマナー(マナープロトコール)	マナープロトコールの知識確認と実践演習	1前2後	64	4	○			○	○			
3	○		航空業界就職対策(就職対策)	サービス接客検定対策、英語での個人面接、グループディスカッション	1前2前	96	6	○			○	○			
4	○		コミュニケーションスキル	グループディスカッション、グループ面接の演習	1通2前	96	6	○			○	○		○	
5	○		卒業制作	2年間学んだことから各自テーマを選び、これまでの授業内容を参考にまとめる	2後	96	6			○	○	○			
6	○		航空業界研究	航空業界の仕事と内容を理解する	1通2前	96	6	○			○	○			
7	○		英会話(イングリッシュコミュニケーション)	学んだ内容を活かし、より実践的な航空業界での英会話を学ぶ	1通2通	##	8	○			○	○			
8	○		英語検定特別講習(英文法)	基本文法の理解と整理を行い、文法を丁寧に解説・解答をすることにより英語に対する苦手意識を払しょく、学習した公文に慣れ、また基本語彙を学習し読解に必要な基本能力を養う	1通	96	6	○			○			○	
9	○		接客英語(エアラインイングリッシュ)	業務で必要とされる英語表現、航空業界で必要とされる天候、地理などの英語を学ぶ	1前2後	96	6	○			○			○	
10	○		アクセス実習(インフィニ実習)	国内・国際線予約の基礎知識、空席照会、PNR作成、座席指定、事前旅客情報、分割、運賃計算、最安値運賃検索	1前後	##	8			○	○			○	
11	○		英検対策 & TOEIC(TOEIC)	TOEICの問題形式に慣れ、正確に早く回答する方法を学習。キーワードとなる単語を学習し読解問題の基礎力を身に付ける	1通2通	##	16	○			○			○	
12	○		教養知識(一般教養)	航空業界の就職を目標としたSPI、筆記、作文対策	1通2前	##	12	○			○	○			

13	○		航空英語 (エアラインイ ングリッシュ)	業務で必要とされる英語表現、航空業界で 必要とされる天候、地理などの英語を学ぶ	1 後 2 前	96	6	○			○			○
14	○		ビューティスタ ディー	客室乗務員やグランドスタッフに求められる 身だしなみ技術を学ぶ	1 通	64	4			○	○			○
15	○		スキルアップ	就職活動においての流れ、取り組み方、最 新の求人情報について	2 前	32	2	○			○			○
16	○		PC実習	エクセル・パワーポイントを使用した資料 作成の方法	2 通	64	4			○	○		○	
17	○		手話	手話検定に必要な単語と例文を覚える。日 付、金額、自国等数字が入った表現を学ぶ	2 通	64	4	○			○			○
18	○		航空サービス実習	業務のの實習を行い、必要な知識を身に付 ける	1 通	64	4			○	○			○
19		○	海外旅行知識(GS 知識)	エアラインスタッフの業務で活かせる必要 な基本知識を学ぶ	1 前	32	2	○			○		○	
20		○	英語検定補習(英 文法)	基本文法の理解と整理を行い、文法を丁寧 に解説・解答をすることにより英語に対す る苦手意識を払しょく、学習した公文に慣 れ、また基本語彙を学習し読解に必要な基 本能力を養う	1 通	96	6	○			○			○
21		○	海外観光地理(GS 知識・国内旅行 知識)	国内・海外観光地の知識を習得する	1 後 2 前	##	8	○			○		○	
22		○	添乗業務(国内旅 行知識)	国内の空港の特色と周辺観光地について学 ぶ	1 後 2 前	64	4	○			○		○	
23		○	ユニバーサルホ スピタリティ(手 話技能検定)	手話検定に必要な単語と例文を覚える。接 客、案内に必要な表現を学ぶ	1 通	64	4	○			○		○	
24		○	海外研修旅行	海外旅行の企画立案・実践を通じて課題の 発見とその解決方法を検討し発表する	1 後 2 後	64	4			○		○	○	
25		○	中国語	中国語の文法を習得し、接客に必要な中国 語の習得、運用能力の向上を図る	2 通	64	4	○			○			○
26		○	韓国語	韓国語の文法を習得し、接客に必要な韓国 語の就職、運用能力の向上を図る	2 通	64	4	○			○			○
27		○	アポロ実習(イン フィニ	国内・国際線予約の基礎知識、空席照会、 PNR作成、座席指定、事前旅客情報、分割、 運賃計算、最安値運賃検索	2 前	32	2			○	○			○

28		○	アクセス実習 国内	国内・国際線予約の基礎知識、空席照会、PNR作成、座席指定、事前旅客情報、分割、運賃計算、最安値運賃検索	2 前	32	2				○	○			○
29		○	アクセス実習 国際	国内・国際線予約の基礎知識、空席照会、PNR作成、座席指定、事前旅客情報、分割、運賃計算、最安値運賃検索	2 前	32	2				○	○			○
30		○	ホテル概論	世界に通用するグローバルスタンダードな知識とスキルを習得する	2 通	64	4	○				○			○
31		○	国内旅行知識(GS 知識)	エアラインスタッフの業務で活かせる必要な基本知識を学ぶ	1 前	32	2	○				○			○
合計				31科目		2560単位時間 (160単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は96単位以上取得しなければならない 履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる (留意事項)		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	16週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。